



えばら連携だより

荏原病院

冬の感染症にご用心

寒くなる秋から冬にかけて増えてくる感染症についてご紹介します。主に上気道症状や胃腸症状がみられるものになります。自身や周囲への感染予防には手洗いの励行、マスク着用などが有効です。

①かぜ症候群

上気道の急性炎症です。鼻水、鼻づまり、咽頭痛、発熱、頭痛、全身倦怠感などが主症状です。気管支や肺に炎症が広がるとせきやたんが出ます。80～90%はウイルスが原因です。安静、水分・栄養補給と対症療法で自然治癒するため抗菌薬は不要です。

②RSウイルス感染症

乳幼児がかかりやすい感染症で、特に1歳未満では重症化の恐れがあります。苦しそうな咳や喘鳴があれば要注意です。慢性の呼吸器・心疾患を持つ高齢者でも重症化することがあります。

③インフルエンザ

インフルエンザウイルスによる感染症です。かぜ症候群と比べて重症化しやすく、肺炎や脳炎を合併することがあります。抗インフルエンザ薬は発症48時間以内に投与しなければ効果はなく、また内服してもすぐに解熱するわけではありません。受診のタイミングが早すぎると診断がつかないことがあります。

④感染性胃腸炎

嘔吐、下痢を主症状とし、時に発熱を伴います。ノロウイルスによるものがよく知られています。感染力が強く、アルコール消毒が無効なため便や吐物を処理する際には注意が必要です。またロタウイルスによるものは小児だけでなく、成人の胃腸炎の原因になることも分かっています。

上記の感染症が疑われるが判断が難しい、あるいは重症化の兆候がある患者さんがおられましたら、当院感染症内科（または内科・小児科）へご相談ください。

このほか当院感染症内科では、海外渡航前後の専門外来も設けております。ご案内を同封いたしますので、年末年始を海外で過ごされる患者さん・ご家族や渡航後の体調不良患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひご紹介いただけるようお願いいたします。

感染症内科医長
なかむら
中村 ふくみ

是非当院に患者さんをご紹介ください。ご紹介の際は患者さんに「診療情報提供書(紹介状)」をお渡しの上、当院にご持参いただくようお願いいたします。

※2回目以降のご受診でも、必要時には紹介状をお渡しいただくようお願いいたします。



○予約専用……03-5734-5489 ▶月～金 / 9:00～19:00 (翌日分の予約は17時まで)
土 / 9:00～12:00 (翌週月曜日の予約は12時まで)

※お急ぎの場合は連携室にご連絡下さい

○救急診療……03-5734-8000 ▶「救急室(又は○○科 救急当番医)へ」

○脳神経外科医師直通……03-5734-7100

○放射線受付……03-5734-7062 ▶月～金 / 9:00～17:00 土 / 9:00～12:00

○地域医療連携室 ー医療連携に関することは何でもお気軽にご相談ください。ー

ダイヤルイン……03-5734-7027 ▶月～金 / 9:00～17:30 土 / 9:00～12:30

F A X……03-5734-7018

○認知症疾患医療センター

ダイヤルイン……03-5734-7028 ▶月～金 / 9:00～17:00

DEXA 法とは？

内科医長
すずき たかみ
鈴木 隆三

当院では骨粗鬆症の診断および治療効果判定にもっとも多く使用されており、精度に優れているDEXA法を用いて骨密度を測定しており、同時に体成分分析が行えます。75歳以上は腰椎圧迫骨折と大腿骨頸部骨折が増加するため、同部位の測定が欠かせません。また1gの単位まで体脂肪、筋肉量の測定ができ、サルコペニアの判定も同時に行えます。body mass index (BMI) = 22を理想体重としますが、筋肉量が不足し、その分、体脂肪で体重を稼いでいる方が非常に多く、サルコペニア肥満と言われます。85歳からは、活動性や筋肉量が不足している方（フレイルと呼ぶ）が要介護になりやすいため、外来通院中からハイリスク群を拾い上げることが必要で骨粗鬆症も骨折を起こす前に見つけ出し、適切な栄養指導、薬物治療を開始することで、筋肉量、骨密度は確実に上がっていき、ADLは維持されるため、当院の役割は重大です。当院の元内科部長、船富等先生は、「そういった高齢者を診ることが当院に課せられた、地域の要求である。」と言われておりました。DEXA法はすべての科の70歳以上の患者さんに受けていただきたい検査です。検査は20分間、臥位になっているだけ、被爆量も少なく、経済的にも負担の少ない検査です。DEXA法を用いた骨粗鬆症治療、栄養管理は寝たきり防止だけでなく、先進的な医療だと思います。報告書はカラーで見やすく、継続的な比較もでき、外来診療に役立ちます。まだまだ検査枠に余裕がありますので是非、お気軽にご依頼ください。



リハビリテーション科における最近の取り組み

リハビリテーション科（以下、当科）の最近の取り組みを紹介します。

以前からご案内していますが、疾患に関わらず上下肢に痙縮（筋のつっぱり）を認める患者さんに対して、当科では入院・外来でボツリヌス療法（ボトックス使用）を行ってきました。

このボツリヌス療法を、最近では、当科所属療法士や当科に係る義肢装具士などと強力に連携したチームで実施する「チームボツリヌス療法」として実施しています。

連携の病院や開業医の先生方で、上下肢の痙縮でお困りの患者さんがいましたら、是非当科にご紹介下さい。

リハビリテーション科医長

おばな まさよし
尾花 正義



「イメージ図」

また、5月から、脳卒中後遺症などによる片麻痺などに対する経頭蓋磁気刺激（Transcranial Magnetic Stimulation:TMS、以下 TMS）療法を開始しました。

このTMS療法は、診療報酬上はまだ認められていない治療方法のため、当院の治験として行っていますが、脳の可塑性に基づくニューロリハビリテーションの一つの治療方法として、すでに国内外で取り組まれています。

連携の病院や開業医の先生方で、このTMS療法について患者さんから相談がありましたら、是非当科にご紹介下さい。

なお、ボツリヌス療法・TMS療法の詳細に関しては、当院当科のホームページをご覧ください。

小児科アレルギー負荷検査について

当院小児科は経口食物負荷試験（oral food challenge; OFC）を積極的にっております

小児科医長
のじり ひろたか
野尻 裕貴

連携医の先生方には、いつも患者さんをご紹介いただき有難うございます。
近年、乳児期のワクチン接種導入により小児の重症感染症は減少傾向ですが、逆にアレルギー疾患、中でも食物アレルギーは増加の一步を辿っており、その治療や予防法に関しては、年々変遷を遂げております。治療法として、以前は除去食療法が基本でしたが、数年前から経口免疫療法の有効性が多く報告されており、予防法としては、今年6月に日本小児アレルギー学会から『鶏卵アレルギー発症予防に関する提言』がなされております。OFCは、以前から食物アレルギーの最も確実な診断法であり、安全摂取可能量の決定、耐性獲得の診断に重要な検査とされています。OFCに伴うアレルギー症状の誘発はまれではなく、アナフィラキシーの際は急速に多臓器に重篤な症状が出現するため、緊急時の速やかな対応や、入院医療に速やかに移行できる環境、小児食物アレルギーに精通した医師の配置が必要です。当院小児科にはアレルギー専門医が2人常勤しており、卵・乳・小麦・大豆・ピーナッツ等多様な負荷食でのOFCを積極的に行っております。食物アレルギーはもちろん、他にもアトピー性皮膚炎、気管支喘息、アレルギー性鼻炎等小児アレルギー疾患全般の診療もしておりますので、日々の診療でお困りの症例や重症例などは何時でもご紹介頂けたら幸いです。

歯科通信

歯科口腔外科 医員 ゆうき やすひろ
柚木 泰広

木枯らし1号が吹きました。気分と天気の良い時に自転車で出勤しますが、私の髪も北風になびく季節になりました。連携医の先生方におかれましても風邪などひかれませぬようご愛ください。

10月20-22日、台風が近づくなか、京都で日本口腔外科学会学術集会在開催されました。海外からの参加を含めて4500人超の参加があったとか。大きな学会で開催可能な都市も限られてしまい、学会の間を縫って地方都市をぶらぶら・・・という楽しみは少々損なわれますが、演題数も多くとても勉強になる学術集会です。今回は、当科からも院内での周術期リハビリ/口腔機能管理の連携に関する取り組み(「STRONG」)について発表し、座長からも『理想的なスタイル』と評価をいただきました。今後も、院内外問わずシームレスな多職種連携の構築に取り組んで参ります。

学会の演題は顎変形症、良悪性腫瘍、唇顎口蓋裂、などなど多岐に渡りますが、近年話題になっている骨吸収抑制剤関連顎骨壊死（Anti-resorptive agent-Related Osteonecrosis of the Jaw: ARONJ）に関する発表が多くみられました。昨年、ARONJ診療の指針となるポジションペーパーが4年ぶりに改訂されました。治療法として外科治療（腐骨除去・壊死骨搔爬・顎切除）の適応範囲が広がったこと

もあり、今回も「Stage2からstage3に進行させない」ことを目的とした外科的治療が有効とした演題がありました。

投与歴のある患者さんの抜歯に際しての休薬の要否、休薬期間などについて統一の見解が得られるまではまだまだ時間がかかりそうですが、当科としては高気圧酸素療法の有効性も検討しながら症例ごとに慎重に対応していきたいと思います。



参考文献

- 1) 骨吸収抑制剤関連顎骨壊死の病態と管理：顎骨壊死検討委員会ポジションペーパー2016 顎骨壊死検討委員会（日本骨代謝学会、日本骨粗鬆症学会、日本歯科放射線学会、日本歯周病学会、日本口腔外科学会、日本臨床口腔病理学会）
- 2) 口腔外科ハンドマニュアル'17 口腔外科学会編 クインテッセンス出版

※手術枠が「木曜日→木曜日・金曜日」と増えました。まだまだ多くの手術に対応可能です。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

荏原病院 地域医療連携の会・ 懇親会のご案内



前号別紙にてご案内いたしました、「荏原病院 地域医療連携の会・懇親会」を下記の通り開催いたします。すでに多数のお申込みをいただき、誠にありがとうございます。11月17日(金)までお申込みを受け付けておりますので、ご参加いただける先生方は、地域医療連携室までご連絡ください。病院スタッフ一同、皆様のご参加をお待ち申し上げます。

【開催日】平成29年11月29日(水)

【内容】①19時30分～講演会(2階 第1・2会議室)

「急性期脳梗塞の治療～カテーテル治療の進歩と当院での現状～」

講師 脳神経外科部長 和田 晃

②20時00分～懇親会(1階 レストラン「ポールライト」)

【お申込】地域医療連携室 廣川・鈴木 TEL: 03-5734-7027 (直通)

公開講座のご案内

【開催日時】平成29年11月25日(土) 14時～15時

【開催場所】荏原病院 1階ロビー

【内容】おなかの病気 その1 胆石症

【講師】内科部長 野津 史彦

一般の方向け公開講座です。ぜひ患者さんにご案内ください。別紙としてチラシを同封いたしました、追加でチラシ送付をご希望の先生は、地域医療連携室までご連絡ください。※事前申込・参加費無料です。

CPC (Clinico-Pathological Conference) 開催のご案内

【開催日時】平成29年11月15日(水) 19時～

【開催場所】荏原病院2階 第1・2会議室

【内容】COPD・HOT症例に合併した小細胞肺癌の1例

【発表者】内科医長 奥田 健太郎

薬剤科勉強会のご案内

【開催日時】平成30年2月15日(木) 19時～

【開催場所】荏原病院

世界糖尿病デー in 荏原

【開催日時】平成29年11月14日(火) 9時00分～11時30分

【開催場所】荏原病院 1階ロビー

【内容】血糖測定、HbA_{1c}測定(限定100名様)、栄養相談、血管年齢測定等

※予約不要・参加費無料です。

糖尿病講習会のご報告

【開催日時】平成29年10月16日(月) 13時30分～

10月の糖尿病講習会は、神経内科田久保部長による「糖尿病と認知症」の講演でした。18名の患者さんにお越しいただき、糖尿病と認知症の関連性について、皆様熱心に聞いてくださいました。世界糖尿病デーイベントをはさみ、今回は12月18日(月)の開催となります。たくさんのご参加をお待ちしています。



放射線検査オンライン予約システム「C@RNA」のご案内

荏原病院では、インターネットを利用したオンライン放射線検査予約システム「C@RNA」(カルナ)を導入しております。オンライン予約により、365日24時間いつでもCT・MRIの予約が可能です。なお、登録料や使用料は一切かかりません。詳しくは下記までご連絡ください。

お問い合わせ先 TEL 03-5734-7062 (放射線科 直通)

平日 8時30分～17時15分 土曜 8時30分～12時30分

※電話による検査のご予約もこの番号で受け付けております。

E-mail: ebara_radiology@tokyo-hmt.jp

※メールでのお問い合わせは、少しお時間をいただく場合もございます。

人事異動

採用

10月1日

内科 医員 藤川 大輝
内科 医員 菊池 一生
内科 医員 佐藤 春奈

産婦人科 医員 八木 由里子
整形外科 医員 平船 佑季
脳神経外科 医員 九社前 実香

精神科 医員 山邊 義彬
麻酔科 医員 小寺 志保

退職

9月30日

産婦人科 医員 小田原 圭
脳神経外科 医員 川内 雄太

整形外科 医員 岡村 博輝
内科 医員 東條 正幸

内科 医員 ながいけ 弘江

10月31日

内科 医員 古川 瞳